

2019年度 黒星病特別防除 りんご

発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
4.3	4.13	5.2	5.7	5.12	11.12

園芸試験場平年値

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度	
				収穫前 使用時期	総使用 回数						
休眠期	腐らん病 ハダニ類	水	98ℓ	1. ベフラン液剤25 2. ハーベストオイル	1,000倍(100cc) 50倍(2ℓ)	休眠期 芽出し直前直後	6回以内	400ℓ	1. 前年カイガラムシ類幼虫(特にサンホーゼカイガラムシ)の発生した園では、アブロードフロアブル1,000倍(収穫30日前、2回以内)を加用する。 2. この回は、発芽前までに散布する。又、発芽した西洋なしに薬害の心配があるので飛散させない。	/	
発芽10日後 (展葉期)	黒星病 モニリア病	1. ジマンダイセン水和剤	600倍(166.6g)			30日前まで	3回以内	400ℓ	1. 展葉期の防除は、頂芽の葉が1枚展葉した頃に、遅れずに散布する。 2. 薬害防止の為、高温時の散布は避ける。	/	
4月中旬～下旬	黒星病 褐斑病 斑点落葉病	1. デランフロアブル	2,000倍(50cc)			60日前まで	3回以内	400ℓ		/	
開花直前	黒星病 うどんこ病 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1. トリフミン水和剤 2. ジマンダイセン水和剤 3. フェニックスフロアブル	2,000倍(50g) 600倍(166.6g) 4,000倍(25cc)			前日まで 30日前まで 前日まで	3回以内 3回以内 2回以内	400ℓ	1. ジマンダイセン水和剤は、開花時散布で受粉障害、又、高温時散布で薬害の恐れがあるので、散布の際は特に注意する。	/	
前回散布7日後	黒星病、赤星病 斑点落葉病 モニリア病 褐斑病	1. オンリーワンフロアブル 2. ジマンダイセン水和剤 3. (バイカルティ) ^{*2}	2,000倍(50cc) 600倍(166.6g) 1,000倍(100g)			7日前まで 30日前まで	3回以内 3回以内	400ℓ	1. 黒星病の初発の時期なので早期発見につとめるとともに、前回防除から10日間以上間隔空かないようにする。 2. この回以降6月上旬までは、さび果や生理落花などが発生しやすいので各種乳剤は使用しない。 3. おうとうに隣接していない園では品質向上のためバイカルティを加用する。 4. 薬害防止のため、高温時の散布は避ける。	/	
前回散布7日後	黒星病、褐斑病、斑点落葉病	1. デランフロアブル	2,000倍(50cc)			60日前まで	3回以内	400ℓ		/	
前回散布7日後	黒星病 褐斑病、斑点落葉病 (アブラムシ類)	1. トレノックスフロアブル	500倍(200cc)			30日前まで	5回以内	400ℓ	1. アブラムシ類の発生が見えた場合はウララDF2,000倍(14日前まで、2回以内)を加用する。	/	
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする											
前回散布7日後	輪紋病、黒点病 黒星病、腐らん病 褐斑病、モニリア病 斑点落葉病、輪紋病 黒星病、炭そ病 褐斑病、黒点病 カメムシ類 アブラムシ類 キンモンホソガ リンゴワタムシ シンクイムシ類 コナカイガラムシ類	1. トップジンM水和剤 2. ファンタジスタ顆粒水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. (バイカルティ) ^{*2}	1,500倍(66.6g) 3,000倍(33.3g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)			前日まで 前日まで 前日まで	(散布は6回以内) 3回以内 3回以内	500ℓ	1. 高温時や薬液が乾きにくい夕方などの散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2. リンゴワタムシが発生している園ではていねいに散布する。 3. カイガラムシ類幼虫(サンホーゼカイガラムシ)の多い園はアブロードフロアブル1,000倍(30日前まで、2回以内)をていねいに散布する。	/	
6月上旬	モニリア病 黒星病 黒点病、赤星病 斑点落葉病 うどんこ病 アブラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. スコア顆粒水和剤 2. トレノックスフロアブル 3. スカウトフロアブル ^{*1} 4. (バイカルティ) ^{*2}	3,000倍(33.3g) 500倍(200cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)			14日前まで 30日前まで 前日まで	3回以内 5回以内 5回以内	500ℓ	1. おうとうには果面汚れと収穫前日数から飛散させない。 2. 黒点病防除の重要な時期である。 3. 斑点落葉病が多い時は、ロブラール500アクア1,500倍(14日前まで、5回以内)を単用で散布する。	/	
6月中旬	黒星病、褐斑病 炭そ病 斑点落葉病 輪紋病 シンクイムシ類、アブラムシ類 ハダニ類	1. ナリアWDG 2. ダントツ水溶剤 3. ダニゲッターフロアブル 4. (バイカルティ) ^{*2}	2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)			前日まで 前日まで 前日まで	3回以内 3回以内 1回	500ℓ	1. ナリアWDGは西洋なしのレクチエの果実や、ぶどうピオーネの葉に薬害を生じることがあるので注意する。 2. 殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。	/	
6月下旬	斑点落葉病、黒星病 褐斑病、輪紋病	1. ベルクートフロアブル 2. ファンタジスタ顆粒水和剤	1,000倍(100cc) 3,000倍(33.3g)			前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	おうとう隣接園	/	
7月上旬	斑点落葉病 輪紋病 褐斑病、黒星病 すす点病・すす斑病 炭そ病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1. オキシラン水和剤 2. バレード15フロアブル 3. エクシレルSE 4. (バイカルティ) ^{*2}	600倍(166.6g) 2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g)			14日前まで 前日まで 前日まで	4回以内 2回以内 3回以内	500ℓ	1. 降雨の多い場合は散布間隔をあけない。 2. ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日まで)を単用散布する。	/	
7月中旬 ～下旬	黒星病、褐斑病 斑点落葉病、輪紋病 シンクイムシ類 ナミハダニ、リンゴハダニ	1. バレード15フロアブル 2. エクシレルSE	2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc)			前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	500ℓ	1. おうとう隣接園対応を行った園では、おうとう収穫後、速やかにオキシラン水和剤600倍(14日前まで、4回以内)を散布する。	/	
7月中旬 ～下旬	黒星病、褐斑病 斑点落葉病、輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 リンゴワタムシ カイガラムシ類 ナミハダニ、リンゴハダニ	1. オキシンドー水和剤80 2. スタークル顆粒水溶剤 3. ダニゲッターフロアブル	1,200倍(83.3g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc)			14日前まで 前日まで 前日まで	4回以内 3回以内 1回	500ℓ	1. 斑点落葉病の多い園ではオキシンドー水和剤に代えて、ロブドー水和剤800倍(14日前まで、4回以内)使用する。 2. ダニゲッターフロアブルは、なしでは新梢伸長期や有機リン剤との混用、10日以内の近接散布では新葉に薬害の恐れがある。又、開花期の水稲に不稔の薬害を生じる場合があり、飛散させない。 3. 殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。 4. 前回のダニ剤散布から1カ月以上間隔を開けない。	/	
8月上旬 (8月5日頃)	輪紋病(炭そ病) すす点病 すす斑病 黒星病 褐斑病 斑点落葉病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. ダイパワー水和剤 2. バイスロイドEW ^{*1}	1,000倍(100g) 2,000倍(50cc)			前日まで 7日前まで	3回以内 4回以内	500ℓ	1. 高温時や薬液が乾きにくい時間帯(極早朝、降雨後の翌朝、夕方など)の散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2. ダイパワー水和剤はももに飛散させない。 3. ハダニ類が発生した場合はコロマイト水和剤2,000倍(前日まで、1回)を加用する。	/	
状況 8月上旬～中旬	斑点落葉病 (褐斑病)	1. ユニックス顆粒水和剤47	1,500倍(66.6g)			14日前まで	4回以内	500ℓ	1. 降雨の多い場合、単用散布をする。ただし、収穫前日数に注意する。	/	
8月中旬～下旬	斑点落葉病 黒星病、褐斑病 輪紋病 すす点病 すす斑病 アブラムシ類、シンクイムシ類	1. ベルクートフロアブル 2. モスピラン顆粒水溶剤	1,000倍(100cc) 2,000倍(50g)			前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. 次回の散布間隔をあけすぎない。 2. ハダニ類が見られる園地では、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日まで)を1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布する。 3. 炭そ病が見られる園地では、ベルクートフロアブルに代えてオースサイド水和剤800倍(前日まで、6回以内)を散布する。ただし、早生種に飛散させない。	/	
9月上旬 (中・晩生種のみ)	斑点落葉病 黒星病、炭そ病 すす点病、褐斑病 すす斑病 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. オースサイド水和剤80 2. ロディー水和剤 ^{*1}	800倍(125g) 1,000倍(100g)			前日まで 前日まで	6回以内 2回以内	500ℓ	1. 中生種の収穫は農薬散布後の日数を守って収穫する。 2. オースサイド水和剤80はももに飛散させない。	/	
9月下旬～10月上旬 (晩生種のみ)	斑点落葉病 炭そ病 褐斑病 (シンクイムシ類)	1. ストライド顆粒水和剤	1,500倍(66.6g)			開花から前日まで	3回以内	500ℓ	1. 晩生種のみ散布する。 2. 薬害防止のため高温時(25度以上)の散布をさける。 3. 西洋なし以外への飛散に注意する。 4. シンクイムシ類がみられるときは、エクシレルSE5,000倍(前日まで、3回以内)を加用する。	/	
収穫後	腐らん病	1. アピオン-E(展着剤) 2. ベフラン液剤25 又は 石灰硫黄合剤	1,000倍(100cc) 1,000倍(100cc) 10倍(10ℓ)			休眠期 休眠期	6回以内	400ℓ	1. 腐らん病防除のため必ず散布する。 2. アピオン-E等の固着性展着剤を加用すると流亡防止効果がある。	/	

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。 オースサイド水和剤、オキシラン水和剤などキャプタン剤の使用基準は合計で6回以内である。 速度を上げて散布量を減らすことは絶対にしない。薬液が十分にかかる様に、剪定や間伐で通風採光を良くする。散布時期は生態に合わせる。中山間地は平地より数日遅れる。 ※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。 ※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

りんご